

## 第2学年国語科学習指導案

日時 平成30年9月26日(水) 5校時  
児童 男子17名 女子15名 計32名  
指導者 奥 太陽

1 単元名 絵を見てお話を作ろう 東京書籍 新しい国語下巻P24～31

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領に以下のように位置付けられている。

#### 第1学年及び第2学年「B 書くこと」

##### 1 目標

(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。

##### 2 内容「B 書くこと」(1)

ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

本教材は、3枚の絵と会話を手掛かりに、それぞれの場面の様子を想像し、想像したことをもとに文章を書く教材である。

教材の特徴として、3つあげられる。まず、3枚の絵には、児童に馴染みやすい動物が登場しており、2年生の児童が興味を引きつけられるものである。また、3枚の絵は場面の展開が分かりやすく、児童が想像を膨らませやすい構成となっている。さらに、会話文をもとに文章を書くため、かぎ(「」)の使い方を指導するのに適している。よって、児童が、絵を見て想像を膨らませ、膨らませたことから書くことを決め、場面のつながりを考えて文章を書く力を身に付けるのに適した教材と考える。

#### (2) 児童観

児童はこれまでに、「じゅんじょよく書こう」で、「初め」「中」「終わり」の構成を考え、順序を表す言葉を用いて文章を書く学習をしてきている。また、児童は1学期から週に2度日記を書いており、心に残った出来事などを5～10文程度書くことができるようになってきた。学習の振り返りをする際には、分かったことなどを、4～6文程度で書くことができ、文を書く力のある児童が多くなってきている。

しかし、(日記などの)作文では、書く題材をなかなか見つけられない児童や内容を膨らますことができない児童がいる。また、文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書く力がまだ身に付いていない児童も見られる。そこで、本単元の指導を通して、想像することの楽しさや、互いの想像を交流する喜びを味わわせたい。そして、3つの場面がつながるように、前後の語句や文のつながりを大切に、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせることで、つながりのある文章を書く力を高めたい。

#### (3) 指導観

本単元を指導するにあたっては、次の3点について留意する。

##### ① ねらいを明確にした言語活動の工夫(視点1)

本単元のゴールは、「絵を見て想像を膨らませたことをもとに、つながりのある話を作る」である。3段落構成の2段落目を想像し、想像したことの中から、文章に書く内容を決めさせる。そして、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えながらつながりのある文章を書かせる。そのため、

書かせるときの必要な要素として、以下の3点を学習活動に位置付ける。

- I 取材 3段落構成の2段落目を想像し、想像したことを付箋に書く。
- II 選材 想像したことの中から、文章に書く内容を決める。
- III 記述 一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えながらつながりのある文章を書く。

第一次では、自分が想像したことをもとに、お話作りをするという単元のゴールを確認する。3枚の絵を提示し、気付いたことを発表し合う中で、想像を膨らませ、お話作りが自分たちにもできそうだ、という気持ちをもたせ、興味・関心を高める。

第二次では、絵を見て、「中」の会話を想像し、想像したことを付箋に書かせる。そして、想像した付箋の中から書く内容を決めさせる。さらに、語と語や文と文のつながりに気を付けて、文章を書かせる。物語を書く際には、接続表現の使い方を確認をしたり、書いた物語を読み返し、語と語や文と文とのつながりを確かめたり、丁寧に学習を進めていく。また、かぎ（「」）の使い方を理解させ、文章の中で使うことができるように指導する。

第三次では、第二次で身に付けた力をもとに、自力で「中」の物語を想像し、文章に書かせる。書き終えた文章は友達同士で読み合い、よいところを見つけて伝え合わせる。教師の評価も適切に行い、単元で身に付いた力を自覚させるとともに、学習に満足感をもたせたい。

### ② ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導方法の工夫（視点2）

想像を膨らませるために、ペア学習を取り入れる。短い会話文を短い言葉で書かせるために付箋を用いる。記述する力に差があるので、早く書き終えた児童に、3つの場面を想像させる学習材を準備する。チェックの視点を意識して書くことができるように、「語と語や文と文とのつながりを明確にしているか」などの記述の際に気を付けることを、作文用紙に記述しておく。

### ③ 自分の振り返りの工夫（視点3）

児童の振り返りは、以下の3つを設定する。

- ア 学習して新たに分かったこと
- イ 友達の発言から学んだこと
- ウ これからの学習でもっと学びたいこと

これらを選んで書かせることで、学んだ達成感と学びの連続性を意識させ、学び続ける態度につながっていききたい。

## 3 単元目標

絵を見て、想像を膨らませて考えたことから書くことを決め、一文の意味が明確になるように語と語のつながりや文と文とのつながりを考えて、文章を書くことができる。

国語への 関心・意欲・態度	・絵を見て想像を膨らませて考えたことを文書に書こうとする。
書く能力	・絵を見て想像を膨らませ、想像したことを付箋にメモを取り、書くことを決めることができる。（書ア） ・一文の意味が明確になるように、語と語のつながりを考えたり、文と文とのつながりを考えたりして、文章を書くことができる。（書ウ）

伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	・かぎ（「 」）の使い方を理解し、文章の中で使うことができる。（伝国（1） イ（オ））
--------------------------	--

#### 4 単元の指導計画と評価計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準
一	1	○絵を見て想像を膨らませて物語を作るという 学習内容を確認、学習の見通しをもつ。	関絵を見て場面の様子を想像してお話を作ること が分かり、単元の学習に興味をもち、楽しんで取 り組もうとしている。
二	2 (本 時)	○絵を見て、くまとうさぎの会話を想像し、想 像したことを付箋に書く。 ○想像したことから、書く内容を決める。	書絵を見て想像したことを付箋に書き、想像した ことの中から書く内容を決めて、吹き出しに書い ている。
	3	○かぎ（「 」）の使い方を理解する。	言会話文におけるかぎ（「 」）の使い方を理解 している。
	4	○くまとうさぎの話を文章に書く。	書一文の意味が明確になるように、文を書いたり、 前後の絵の内容とのつながりを考えて文章を書 いたりして。 言会話文におけるかぎ（「 」）の使い方を理解 し、文章の中で使っている。
	5	○文章を読み返し、語と語のつながりや文と文 とのつながりを確認する。 ○完成した物語を読み合い、身に付けた力を確 かめる。	書一文の意味が明確になるように文が書けている か、前後の絵の内容とのつながりがある文章が書 けているか確かめている。
三	6	○絵を見て、「中」のうさぎとりすの会話を想像 し、想像したことを付箋に書く。 ○想像した付箋の中から書く内容を決める。	書絵を見て想像したことを付箋に書き、想像した ことの中から書く内容を決めて、吹き出しに書い ている。
	7 ・ 8	○語と語や文と文のつながりに気を付けて、物 語を書く。 ○書いた物語を読み返し、語と語や文と文との つながりを確認する。 ○かぎ（「 」）の使い方を確かめる。	書一文の意味が明確になるように、文を書いたり、 前後の絵の内容とのつながりを考えて文章を書 いたりして。 書一文の意味が明確になるように文が書けている か、前後の絵の内容とのつながりがある文章が書 けているか確かめている。 言会話文におけるかぎ（「 」）の使い方を理解 し、文章の中で使っている。
	9	○書いた物語を友達と読み合い、相互評価や自 己評価をする。 ○単元の学習を振り返る。	関絵を見て想像を膨らませ、一文の意味が明確に なるように、語と語のつながりを考えたり、前後 の絵の内容とのつながりを考えて文章を書いた りできたかを振り返っている。

## 5 本時の学習

### (1) 目標 (2/9時間)

- 絵を見て、くまとうさぎの会話の想像を膨らませて、考えたことを付箋にメモを取り、場面のつながりを考えて会話文を決めることができる。【書ア】

### (2) 本時の評価規準と具体的評価規準

本時の評価規準 (評価方法)	B	努力を要する児童への教師の支援
絵を見て想像したことをカードに書き、想像したことの中から書く内容を決めて、ふき出しに書いている。 (プリントの記述内容・発言)	絵を見て、くまとうさぎの会話を想像し、想像したことを付箋に書いている。 想像したことの中から、書く内容を決めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像を膨らませるために、ペア学習を取り入れる。</li> <li>短い会話文を短い言葉で書かせるために付箋を用いる。</li> <li>ペアや全体で交流したことの中から、場面に合った会話文を決めるように助言する。</li> </ul>

### (3) 展開

段階	学習活動と学習内容 ☆発問 ・ 予想される児童の考え	指導上の留意点と評価 (◇) 研究の視点 <b>ユ</b> <b>振</b>
導入	<p>1 前時までの学習を想起する</p> <p>2 本時の学習課題を確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習を振り返る。</li> <li>物語を作るために、くまとうさぎがどんなお話をしているか想像し、吹き出しに書く内容を決める時間であることを確認する。</li> </ul>
5分	くまとうさぎの会話をそうぞうし、お話に書くことをきめて、ふき出しに書こう。	
展開	<p>3 絵を見て会話を想像する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ くまとうさぎの会話を想像し、ペアで話す。</li> <li>☆ くまとうさぎはどんなお話をしているかな。</li> </ul> <p>4 想像したことを、全体で交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ くまとうさぎがどんなお話をしているか、想像したことを全体で交流する。</li> </ul> <p>5 想像したことを付箋に書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアや全体で交流したことを参考に、さまざまな会話を想像し、付箋に書く。</li> </ul> <p>6 吹き出しに書くことを決める</p>	<p><b>ユ</b> 想像を膨らませるために、ペア学習を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1枚目を3枚目とのつながりを意識させるために、前後のくまとうさぎの会話を確かめる。</li> <li>想像した根拠を問うことで、前後の絵とのつながりを意識させたり、つながりのある文章になるように考えさせたりする。</li> <li>児童が発言した会話を板書し、カードに書くときや吹き出しに書く際に、振り返られるようにする。</li> </ul> <p><b>ユ</b> 短い会話文を短い言葉で書かせるために付箋を用いる。</p> <p>◇絵を見て想像したことを付箋に書いている。【書ア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「初め」と「終わり」の絵を確認し、場面のつながりに合う</li> </ul>
33分		

	<p>○ 「初め」と「終わり」のつながりに合うカードを一つ選び、吹き出しに書く。</p> <p><b>Bと捉えるまとめ方の例文</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>うさぎ「りんごとれないよ」 くま 「ぼくがとってあげるよ」</p> </div>	<p>付箋を選ぶ大切さに気付かせる。</p> <p>◇想像したことの中から書く内容を決めて、吹き出しに書いている。【書ア】</p>
<p>終 末 7 分</p>	<p><b>7 学習の振り返りをする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、「中」の会話を考えました。「初め」と「終わり」の場面とつながるように想像することが大事だとわかりました。</li> <li>・友達は、いろいろな会話を考えていたので面白かったです。想像して考えることは楽しいことだし、大事なことだと学びました。</li> <li>・これからは、想像した会話を使ってお話を早く書きたいです。</li> </ul> <p>○ 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りの観点に沿って学習の振り返りをさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>振</b> 観点を次のように示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 学習して新たに分かったこと</li> <li>イ 友達の発言から学んだこと</li> <li>ウ これからの学習でもっと学びたいこと</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は、かぎ（「 」）の使い方を学習することを確認する。</li> </ul>